

予習動画教材を用いた英語教育の実践

野本尚美^{*1}, 平塚紘一郎^{*1}

^{*1} 仁愛女子短期大学

Practical Research on English Education

Using Video Materials for Preparation

Naomi Nomoto^{*1}, Kouichirou Hiratsuka^{*1}

^{*1} Jin-ai Women's College

本研究の目的は、語学教育における学習の効率化を図るための動画活用方法について検討することである。短期大学生 84 名を対象として、英語の教科書の中で扱われている語彙や文法について解説した動画を作成し、授業前に視聴する予習動画として LMS(Moodle)上で配信した。結果として、約 70%の学生が授業前に予習動画を視聴し、視聴した学生のうち 96%が、「予習動画は英語の学習に役立った」と回答した。

キーワード: 英語教育, 予習, 動画, Moodle

1. はじめに

英語の授業においては、予習として単語や熟語の意味を自分で調べることや教科書本文の和訳をすることが課されることが多いが、英語があまり得意でない学習者にとってそれらを行うことは容易ではない。そこで本研究では、学習者が効率的に予習を行うことを目的として、語彙や基礎的な文法について教師が解説した動画を作成し、それらを予習動画として用いた授業実践を行った。学習者に対するアンケート調査を実施し、その結果をもとに動画の活用方法について検討した。

2. 動画配信の方法

2.1 動画の撮影と編集

動画は一般的なデジタルビデオカメラを用いて撮影した。解説を行う教員が背景となるホワイトボードに解説を書けるように、教員が画面中央に小さめに写るようにした。

動画の編集には Adobe Premiere Pro を用いた。スマートフォンでの視聴も考慮し、画質は 640x360 ピクセルに下げ、ファイルサイズが小さくなるようにした。

また、編集は次の 2 点に注意して行った。まず、教員が単語の意味や英文の和訳などと言う場面があるが、動画をスキップして再生しないようにするため、字幕はほとんど入れないようにした。これにより学習者は動画を最初から最後まで再生しないと答えがわからないようになっている。次に、単調な動画では学習者が飽きてしまうと思われたため、動画の一部に音楽や効果音などを入れ、興味を引くように工夫した。

2.2 動画の配信方法

動画の配信には LMS の 1 つである Moodle を利用した。Moodle を選択した理由は、対象学生が他の授業でも広く利用しているためである。Moodle は学内と学外の両方からアクセスできるため、インターネット接続環境があれば、自宅でも予習動画が視聴できるようになっている。また、スマートフォンでも視聴できるようになっている。

予習動画を学生へ提示する方法としては、レッスンモジュールを使用した。レッスンモジュールの機能により、自動的に授業直前に予習動画を視聴できなくなるようにした。予習動画を Moodle 上に掲載した例を図 1 に示す。



図 1 予習動画配信の様子

3. 手順

対象者は教養科目「英語」を履修している女子短期大学生 1 回生 84 名である。教科書として用いた『Let's Read Aloud More!音読で極める基礎英語』⁽²⁾ 中の Vocabulary Preview と Grammar Point について、それぞれ 10~20 分程度の解説をした動画を作成し、2018 年 11 月から 2019 年 1 月にかけて 5 回 Moodle 上で配信した。学生には授業前に各自視聴するよう指示した。動画で解説した内容について理解できているかどうかを確認するため、授業のはじめには簡単なテストを実施した。

4. 結果と考察

授業前に予習動画を視聴した学習者の割合は図 2 の通りである。各回平均して約 7 割の学生が視聴した。

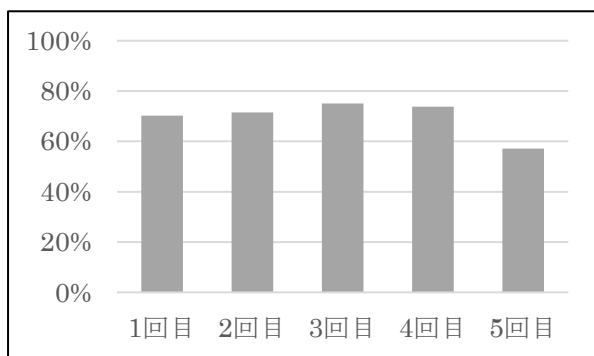


図 2 予習動画の視聴率

また、動画を視聴した学生を対象とした事後アンケートにおいて「予習動画は英語の学習に役立ったと思いますか」という問いに対し「とても役立った」「まあまあ役立った」と答えた学生がそれぞれ 48%

あった(図 3)。これらの結果から、半数以上の学生が予習動画を授業前に視聴し、多くの学生が学習に対して効果的だったと考えていることがわかった。

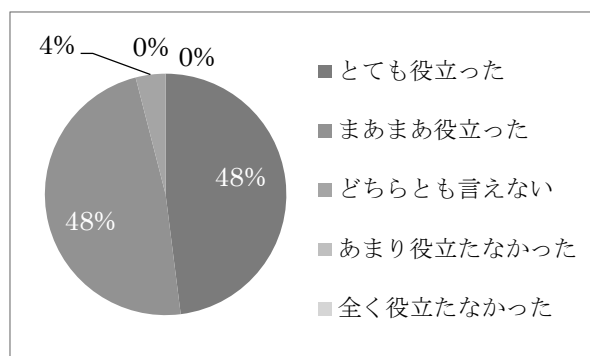


図 3 予習動画の評価

5. まとめと今後の課題

英語学習の効率化を図るため予習動画を配信した結果、半数以上の学生が事前に動画視聴して授業を受けるようになった。事後アンケートの自由記述欄においても「分かりやすかった」「好きな時間に勉強できるので良かった」などの肯定的な意見が多く見られた。

一方で、5 回とも動画を視聴した学生は 42.9% (36 名) であり、1 回も視聴しなかった学生は 10.7% (9 名) であった。学習者への周知の仕方や学習動機を高めるための方策については今後さらに検討が必要である。また、動画の内容について「もう少し時間を短くしてほしい」などの意見もあったことから、学習者の負担を軽減させるための工夫もさらに必要とされる。

参考文献

- (1) 井上博樹: “反転授業実践マニュアル”, 海文堂出版株式会社, 東京 (2014)
- (2) 角山照彦, Simon Capper: “Let's Read Aloud More!音読で極める基礎英語”, 成美堂, 東京 (2015)
- (3) 小野田公, 糸数昌史, 久保晃: “理学療法学分野への反転授業の導入時の問題と対応”, 理学療法科学, Vol31, No.4, pp.565-569 (2016)
- (4) 笹倉理子, 桑名杏奈, 浅本紀子: “Moodle を活用した授業動画の簡易配信について”, PROCEEDINGS OF MOODLE MOOT JAPAN 2014, pp.48-53 (2014)